

職場のアンコンシャス・バイアスを考える

近年、企業でダイバーシティ&インクルージョンが推進されるなか、「アンコンシャス・バイアス」への関心が高まっています。アンコンシャス・バイアスとは無意識の偏見や思い込みのこと。これは誰もが何かしら持っているもので、「女性は結婚したら退職するもの」「男性は仕事をして家計を支えるべき」などが一例として挙げられます。ただ、言葉の認知と日々の生活での経験・実感・見聞きの差には開きがあるようで、電通総研の「ジェンダーに関する意識調査(2023年)」によると、アンコンシャス・バイアスに該当することを経験・実感・見聞きしたことがある人が39.3%いたのに対し、言葉そのものを認知していた人は11.7%でした。



職場で特に多く見られる性別に関するアンコンシャス・バイアスについては、Job総研が「2023年 言動の偏見と意識調査」を実施しています。その中では、結婚・育児・恋人に関するアンコンシャス・バイアスな言動を受けた経験ある人の78.1%が、その言動に対してストレスを感じたと回答。その理由は、「意見を押し付けられている気分になる」、「否定されている気分になる」などが多いようです。

アンコンシャス・バイアスには物事の判断が迅速にできるというメリットもありますが、他人を傷つける場合もあり、組織運営においては生産性の低下などの問題につながりかねません。大切なのは自分の偏見・思い込みに気づくこと。内閣府男女共同参画局のアンコンシャス・バイアスの解消等に向けた普及啓発用動画などを参考に、職場に潜む偏見・思い込みについて考えてみてはどうでしょうか。

今月の一言

年末の風物詩といえば大掃除ですが、実は大掃除は事業者の義務でもあり、労働安全衛生規則第619条に6カ月以内ごとに1回、定期的に行うことという旨が定められています。従業員が安全かつ健康に働ける職場環境を維持するためにも、大切な取り組みです。

※「今月の一言」の記載内容は今後の掲載を約束するものではありません。